改善方策実施計画書

担当部局：　語学教育研究所　　責任者：語学教育研究所長　　幹事：外国語学部事務室

2010年　7月13日

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	研究員の個人研究と共同研究の効率的な展開が十全ではない。学生の教育的需要の検討が不十分である。
改善方策	7-25-2　課題別研究または共同研究を優先させ、授業に還元できる指向性を共有する。

計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
			→			

2010年度実施計画	達成時期	2010年度取り組み結果
研究所の研究活動として、個人研究、共同研究のガイドライン設置のための事前の情報収集を行う。	2011.3	A完全に達成　○　B達成半ば　　C未達成 （BまたはCの理由） 引き続き、次期所長への申し送り事項として、 他研究所へのヒアリングなどの情報収集に努める。

2011年度実施計画	達成時期	2011年度取り組み結果
未習外国語教育に関するアンケート調査を行う。 東松山キャンパスの「外国語分科会」と連携してその実施を検討する。	2011.10 2012.3	A完全に達成　○　B達成半ば　　C未達成 （BまたはCの理由）「共同研究を優先させ、授業に還元できる指向性を共有する」するために「未習外国語教育に関するアンケート調査・研究」実施を決定した。「外国語分科会」との連携もまとまり、執行予算も承認されたため、「この計画の実施検討をする」目的は達成された。

2012年度実施計画	達成時期	2012年度取り組み結果
前年度にその実施が決定、承認された「未習外国語教育に関するアンケート調査・研究」を「外国語分科会」との連携で後期に実施する。アンケート調査を分析、考察した結果をまとめて、語研より刊行する。	2013.3	○　A完全に達成　　B達成半ば　　C未達成

2013年度実施計画	達成時期	2013年度取り組み結果
		A完全に達成　　B達成半ば　　C未達成 （BまたはCの理由）

2014年度実施計画	達成時期	2014年度取り組み結果
		A完全に達成　　B達成半ば　　C未達成 （BまたはCの理由）

2015年度実施計画	達成時期	2015年度取り組み結果
		A完全に達成　　B達成半ば　　C未達成 （BまたはCの理由）

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	研究員の個人研究と共同研究の効率的な展開が十全ではない。学生の教育的需要の検討が不十分である。
改善方策	7-25-2　課題別研究または共同研究を優先させ、授業に還元できる指向性を共有する。

(2011 年 3 月 10 日現在)

【現状の説明】

研究員の研究領域によって、一元化しにくい側面もあり、効果的な共同研究への取り組みにはなお不十分な体制である。引き続き、検討事項として次期所長に申し送ることとした。

上記の改善方策にしたがい、「未修外国語に関する調査・研究」を東松山キャンパスにおかれている外国語分科会と連携で共同研究実施を決定したため「ガイドラインの作成、整備」は変更となった。

所見	計画通り実施されることを期待します。

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

「共同研究を優先させ、授業に還元できる指向性を共有する。」ために、「未習外国語教育に関するアンケート調査・研究」実施を決定した。東松山キャンパスでの大掛かりなアンケート調査が前提となるため、東松山キャンパスの「外国語分科会」と連携がまとまった。予算折衝において、執行予算は新規事業枠として承認された。新年度早々に実行準備にかかる体制が整った。

所見	「未習外国語教育に関するアンケート調査・研究」実施を決定しただけで、2011 年度中にこのアンケートは実際に実施されませんでした。2011 年度の実施計画は「未習外国語教育に関するアンケート調査を行う」とありますので、目標を達成されているとは言えないと思います。2011 年度に実施できなかったアンケート実施について 2012 年度に計画通り実施されることを希望します。

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

「東松山外国語分科会」との連携で、共同研究「本学における未習外国語に関する意識調査研究」は前期中に、日本フランス語フランス文学会によるフランス語教育に関する全国的アンケート(文部科学省の研究の一環)とのアンケート方法、分析等のタイアップが成立した。後期に「東松山外国語分科会」の協力を仰ぎ、本学における未習外国語全般に対するアンケートが実施された。
分析と報告書作成が終了、２月末に刊行作業に入り、年度末刊行の運びとなった。
この成果が本学における未習外国語の教育改善、新機軸展開の基礎的資料となることを期待してやまない。

所見	目的が達成されたことは評価できます。しかしながら、恒久的な共同研究の仕組みについては提案できませんでした。研究所内で、今後も取り組みを続けられることを期待します。

(2014 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

所見	

改善方策実施計画書

担当部局：　語学教育研究所　　責任者：語学教育研究所長　　幹事：外国語学部事務室

2010年7月13日

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	研究所の研究活動の範囲、規模が明確ではない。学外・海外の研究員との連携も不十分である。
改善方策	7-25-3　研究所の研究活動を明確化し、学外・海外の研究員との連携を積極的に整備する。

計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
	→	→	→	→		

2010年度実施計画	達成時期	2010年度取り組み結果
現行の研究所の規約を再検討し、問題点を把握する。	2011.3	A完全に達成：　　○　　B達成半ば：　　C未達成 （BまたはCの理由） 目標設定が漠然としていることから、さらに精査し、他研究所などからの情報収集につとめる。 現行の研究所の規約を再検討は実施しなかった。

2011年度実施計画	達成時期	2011年度取り組み結果
学外・海外の研究員、客員研究員制度を整備する。 また、その研究成果の公開に努める。	2012.3	○　A完全に達成：　　B達成半ば：　　C未達成 （BまたはCの理由） 「学外・海外の研究員、客員研究員制度を整備する」ために多数の論議を重ねた結果、申し合わせ事項を整備し、外国語学部教授会の承認を得たので、学外・海外研究員の受け入れ及び研究成果の公開発表も実施が容易になった。

2012年度実施計画	達成時期	2012年度取り組み結果
客員研究員制度の整備がなったので、後期以降、研究所の研究活動の範囲、規模の明確化に取り組む。 研究所の今後の諸活動の充実化、規模の明確化のための運営に関し、慣習により行われていたことを文書化して、「語学研究所　申し合わせ事項」を作成に努める。		A完全に達成：　　○　　B達成半ば：　　C未達成 本年度前期においては、中国から客員研究員が来日し、研究活動を実施することになっていたが、先方の大学と中国国内事情により、実現できなかった。

2013年度実施計画	達成時期	2013年度取り組み結果
研究所の研究活動範囲、規模に関して、全学的な議論と展開を模索する。他の研究所との交流や連携などからその可能性を探る。		A完全に達成：　　B達成半ば：　　C未達成 （BまたはCの理由）

2014年度実施計画	達成時期	2014年度取り組み結果
		A完全に達成：　　B達成半ば：　　C未達成 （BまたはCの理由）

2015年度実施計画	達成時期	2015年度取り組み結果
		A完全に達成：　　B達成半ば：　　C未達成 （BまたはCの理由）

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	研究所の研究活動の範囲、規模が明確ではない。学外・海外の研究員との連携も不十分である。
改善方策	7-25-3　研究所の研究活動を明確化し、学外・海外の研究員との連携を積極的に整備する。

(2011 年 3 月 10 日現在)

【現状の説明】

研究所の研究活動の範囲、規模については、本学の財政基盤、教育施策とも関わるため、現在の状況では現状維持で推移する可能性が高いが、海外からの研究員の招聘、受け入れについては成果を挙げている。今後、さらに充実させていく。

学外・海外の研究員との連携を充実させるために、先ず受け入れの基準、手続き等の整備に努める。

所見	一研究所のレベルを超えて、全学的に協議する必要があると思われます。

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

「学外・海外の研究員、客員研究員制度を整備する」ために多数の論議を重ねた結果、申し合わせ事項を整備し、外国語学部教授会の承認を得た。整備の要諦は従来、学外・海外の研究員の申し出でに対し、関係各所間の受け入れ要件が重複しており速やかな対応ができない点を改善することにあった。語研での受け入れは「教員」であること、「滞日期間中の資金保障があること」等の条件が承認され、棲み分けが可能になった。学外・海外の研究員の研究成果の公開発表は従来、受け入れ時の条件になかったこと、語研の公開の場（ＨＰ，語研便り等）が不十分であったことが改善されたために一段と容易になった。

所見	研究所内での申し合わせ事項を整理し、外国語学部教授会の承認を受け改善の取り組みが順調に進んだことは評価できます。これに基づき 2012 年度以降の活動を期待します。 問題点としてあげている「研究所の研究活動範囲、規模」については、全学的な議論が必要でしょう。

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2011 年 4 月から「語学教育研究所」の内規および申し合わせ事項等について、本研究所の合同委員会で何度となく議論を重ねた。その結果、2012 年度の４月には文書化したものを学部構成員に対し説明し、それに基づいて 2013 年度は活動を実施する。

所見	2013 年度の活動が盛んに行われることを期待します。

(2014 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

所見	